

ピンチをチャンスに

ガイダンスグループ 総括教諭 青木 健

コロナウイルスなるものが猛威を振るい、緊急事態宣言が出され県立高校は休業を余儀なくされました。その間、保護者の皆さまにおかれましても、いったいつ終息するのか、学校はいつ再開するのか、学習はどう保障されるのか、学校行事は、部活は、友だちづくりは、などいろいろとご心配であろうと存じます。生徒の皆さんもそうでしょうし、我々も同様の心配をしているわけで、命にかかわることですから致し方のないことではありますが、特に年度当初の大切なこの時期に出鼻をくじかれた感なきにしもあらずでして、いわばピンチの真っ只中にあるといった感じがしています。

しかしこのような状況を指をくわえてみているわけにはゆかない、それではますますピンチが広がるだけで何の解決にもなりません。こと学習面においては、現在、学校から課題を配信しています。中間試験の範囲も事前に示し、それに見合う課題や内容をより理解するための動画を配信した科目もあります。もちろん、それだけで十分とは言えません。やはり生の授業が必要で、生徒の反応やクラス内での生徒間のやりとりなどがなくどうしても十分にやれたとは言えない。お子さんたちも同じような思いを抱いていると推察しています。

しかしながらお子さんたちはこの状況の中でさらなる学びをしているのではないかとも思っています。つまりお子さんたちは自らが学ぼうという姿勢で、より高度なもの、より深い内容を持つものにチャレンジしているのではないかと、ということです。ところで、中国語では「勉強」と「学習」では意味が異なっていて、「勉強」には「無理にさせられる」という意味があり、一方、「学習」は自ら学び、習うという意味があるのだそうです。何かさせられるとなると、そこにはやらされ感が伴うので自分の力にはあまりならない、一方、自らの力で主体的に学ぶ、つまりきちんと「学習」するならば、これは自分の意思によるものだから力となる。あえて心配なのは独善的あるいは自己流になりかねないという点で、それがなければいわゆる「学力」のみならず、さらには人として必要な主体的に生きる力をも得ていることになるのではないのでしょうか。

これからいろいろなことに挑戦していこうというお子さんたちですからきっとそのような主体的な姿勢でこのピンチの状況を打破するものと思います。3年生は来たるべき大学入試に、2年生はまずは第一志望宣言へ、そして1年生は翠嵐生としての基盤作りに向けての主体的な学びは人として成長するチャンスともきっとなることでしょう。

それにはやはりなんといっても健康が第一です。ご家庭ではこれまでもお子さんたちの健康面においても少なからずサポートをしていただいています。このような状況でいろいろと大変だとは存じますが、引き続きお子さん方へのサポート、そして皆さま方ご自身の健康にも留意されますように。

よろしく願いいたします。